

2024年度事業報告

1. 2024年度は開業より35年を過ぎたコッペの高齢化の影響がまともに出た年度となりました。心筋梗塞で入院したTさん。Sさんの目の手術にともなう入院。高齢になつたYさんは、高齢者のデイサービスへ移行しました。

他のメンバーも今までできていたことが難しくなってきた人がいたり、はてさてこの先どうしていったらいいか、悩みはつきない1年でした。

また、10月から12月の繁忙期は、多くの注文を頂き本当にありがたいことです。しかし人手不足も重なり、スタッフ・障害メンバーにも多くの負担をかけてしまいました。みんな頑張ってくれたことに感謝します。今後、繁忙期をどう乗り越えていくのか、これも大きな課題です。

4月にオープンしたコミュニティカフェは、現在事情によりカフェは休業状態になってしまっているなど、こちらも課題は多くありますが、子ども食堂やいろいろなイベントの開催など、コミュニティスペースとして定着してきました。

また、先の述べた高齢化にともなう障害の重度化に対応する作業スペース、気持ちを落ち着かせるクールダウンとしてのスペースとしての意味合いも大きなものがあります。現在は、作業場だけで働く人、コミュニティスペースだけで働く人、曜日を決めて両方で働く人といいます。それぞれの状態に応じて働く場を使い分けることもできています。

コッペの作業のメインはパン・クッキーの製造ですが、コミュニティスペースとの両輪をいかに機能させていくかが重要になってきています。

2. 理事会

2024年度は計8回行いました。理事以外の皆さんにも参加していただき、今後の会の方向性を検討してきました。意見を吸い上げるには不十分な面もあるとは思いますが、それぞれの意見を出し合ってコッペの今後について考えたいと思います。

代表理事はもとより理事そのものの世代交代も求められています。引き続き都合がつく限り皆さんにも参加してもらうことを呼びかけます。

3. 会員（2024年3／31現在）

正会員26名、賛助会員・寄付者124名（重複者除く）（昨年度より1名減）となっています。

認定N P O法人として継続するためには、年3,000円以上の賛助会員・寄付者が平均で100名以上いることが最低の条件です。

安定して認定の条件をクリアするためには引き続き寄付者・賛助会員の増加が必要です。今後も情報発信に努めながら賛助会員・寄付者の拡大を図ります。ご協力をお願いします。

4. 社会教育の推進

① 会報「麦の穂」の発行 計3回 2024年6月・9月・2025年1月

今年度は予定より1回少ない3回発行（350部前後）となりました。関係する団体の方から原稿をいただいたり、コッペの障害メンバーからの原稿もあり、内容もますま

ずだったと思います。賛助会員の確保のためにも会報は大切です。しっかり定期的に発行したいと思います。

② ボランティアの受け入れ

区役所販売・DNP販売・ショップ等には、ボランティアの方にお世話になっています。ボランティア保険に加入し活動中のケガ等に備えました。

また、今年度は昨年度できなかった高校生の夏ボラ体験の受け入れも行いました。中学生の職場体験の受け入れも行いました。

5. 就労継続支援B型「コッペ」の運営状況

① 開設状況

開設日数は、263日／年、利用者延べ数は、4,250人（昨年258日／年、利用者延べ数は、4,124人）となっています。コッペの定員としては、20名。在籍は22名、一日当たりの平均利用者数は、16.2人（昨年16.0人）となりました。延べ数、平均数ともほぼ昨年並みとなっています。

それを支えるスタッフは、常勤6名、パート4名です。それに区役所販売等を手伝っていただけるボランティアの皆さんに、協力していただきました。多くの障害メンバーにも外へ出てもらおうと、配達・販売にも参加してもらいました。土日のイベント販売時には障害メンバーも参加してもらえるとありがたいです。

② 売り上げ

パンとクッキーの売り上げは、約3,060万／年（見込み）（仕入れ販売分260万含む）、月平均255万となっています。2023年度の売り上げとほぼ同じになっています。この間の取引先の継続、各種イベントの開催等で、安定した売り上げが確保できています。

しかしながら、原材料費の高騰など利益率は圧迫されています。パンの価格の値上げ等行いましたが、今後も原材料費の先行きは見えず、不安材料となっています。

また、特に繁忙期はスタッフの負担が大きく、これまでのようにすぐに受注に対応することが難しくなっています。

引き続き他の事業所との共同出店も行いました。イベントでの販売は人員の確保が大きな問題になります。互いにプラスになるように今後も続けていきたいと思います。

月2000円の会費で福祉事業所の製品をお届けしているB-NETサポーター会員ですが、期間の中では100人を超えた月もありましたが、退会する人もあり、現在97名です。こちらも是非引き続きお声がけをお願いします。事務局・多夢多夢舎中山工房の会員を含めると全体では160名です。

③ コッペ&エフブンノイチ+について

コッペ開設から34年目の2023年に検討を重ね、NPO法人桑の木の協力を得て2024年4月に「コミュニティカフェ コッペ&エフブンノイチ+」を開設しました。

コンセプトとして掲げた「地域福祉のコミュニティカフェ」を大切にしながら、今までできなかった多様な作業提供を行うとし、実際にメンバーが自分のペースで働くにはどうしたらいいのか？何が得意なのか？を探りながら試行錯誤の1年間でした。

カフェ部は、スタッフ2名と日によって店番ボランティアさん、子ども食堂ボランティアさんの力を借りて営業しています。

駄菓子のお得意様の小学生や3階の放デーの皆さん、ご近所の皆さん、たくさんの方と知り合いになりながら、営業、作業提供してきました。

カフェでは、1日当たり約5~8人のメンバーが活動しています。うち3名が新規利用者です。

主な作業は、カフェの掃除、配達、販売。次にカフェの装飾や掲示物作り、クッキーやパンの袋にシールを貼る作業。下請け作業を2種類。封入作業が得意です。

土曜日は、普段パンやクッキーを作っているメンバーも希望出勤しています。

中でも「子ども食堂」の日は出席者が多いです。

前日に野菜の皮むきや型抜き、食器洗浄などを分担して行い、当日は、カレーを煮ながら役割分担とシュミレーションを行います。3~5つの鍋を障害メンバーとボランティアで調理している時間は、とても良い雰囲気です。

開店後は、配膳して片づけて…、洗って、拭いてと休む暇がないほどですが、きっとやりがいを感じてくれているのではないかと思っています。

土曜日には、福祉事業所の販売会である月例の福の市、その他に不定期で管弦楽コンサート、影絵人形劇、ダンス、エステ体験、フラワーアレンジメントなどのイベントを行いました。

佐藤順子さん主催の月例「ピアカフェ」は、時折メンバーも同席してきました。いろいろな講師の方やお客様と触れ合え、そしてカフェを知っていただく機会にもなりました。

買い物や販売会に合わせて見学をしたり、外食をしたり、仕事以外の経験もカフェでは大切にしてきました。

パンやクッキーを作る仕事ができなくなても働く場があるように、障害メンバーも、近所の方にも「居場所」であるようにスタートしたカフェですが、「営業しながらの支援」「メンバーに合わせた作業提供」「メンバー同士の関係性」「工賃に見合った

作

業提供」などの課題が見えてきました。

コッペで働く全ての人が納得できる、満足できる活動を模索していくかなければならぬと感じています。

④ 訓練等給付費収入

2024年度は、4,240万ほどとなりました。2023年度は3,437万ほどでしたので、800万ほどの増加となりました。給付費の報酬単価が増えたことが大きな要因です。

⑤ 工賃

障害メンバーの給料は、総支給額で9,229,596円（昨年度9,589,784円）でした。平均工賃は、47,477円（昨年度49,826円）でした。先に述べたように売り上げは好調だったので、原材料価格等の高騰により利益は少なく、小幅な減少となりました。

また、コッペ&エフブンノイチ+の開設でも述べたように、障害の重度化・多様化もあり、これまでのように工賃アップを最優先に掲げるわけにもいかない現状もありま

す。

工賃アップとともに、障害メンバーに対する支援をいかに充実させていくか、そのバランスが問われてくるようになってきています。

⑥ 収支状況

給付費は増加しましたが、コミュニティスペースを増やした分、家賃・人件費等の経費も大きく増加しました。先の述べたように高齢で通えなくなった人・年度途中で退所した障害メンバーもいて、経費を十分に賄うことができませんでした。減価償却も考慮すると200万ほどの赤字となります。助成金をいただいて購入した車両の減価償却費が大きくなっています。障害メンバーの増員が必要となっています。

⑦ レクレーション

レクレーションとしてはカラオケを開催しました。日々の仕事では見ることのできない才能を発揮した人もいました。

【6】NPO法人フルハウスとの連携

コッペの直接の運営母体は麦の会ですが、障害者総合支援法上は、NPO法人フルハウスが運営する形になっており、訓練等給付費もフルハウスを通じて入ってくる仕組みとなっています。給付費の請求事務は、もとになるデータはコッペで作成し、国保連への請求はソレイユから行っています。それに対して月1万円の事務手数料をソレイユに支払いしています。

引き続き情報交換をしながら連携していきたいと思います。

【7】NPO法人共同連について

NPO法人共同連は、コッペの立ち上げからお世話になってきました。全国の共に働く事業所の団体です。9月に大阪で行われた全国大会に参加しました。